

アスペルガー症候群について

皆さんは「アスペルガー症候群」についてご存知ですか？知的、言語面での遅れを伴わない自閉スペクトラム（ADHA や高機能自閉、アスペルガー症候群などなど）ということですが、私自身何度聞いても実態が良く理解できませんでした。

皆さん、職場において指示したことは良くできるが、自ら進んで次の仕事ができない、融通の利かない、いちいち指示しないとできない人の経験はありませんか？

今回、少しでも理解しようと「自閉っ子、こういう風にできています！」（花風社発行）を読みました。成人になってからアスペルガー症候群と診断されたニキ・リンコ（翻訳者）と藤家寛子（作家）の対談集です。

自閉症は「心の病」ではなく「先天的な脳機能障害」であり、社会性の障害といわれていますが、どうも「身体が辛い」障害ではないかという事です。

宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を読んだ藤家さんは「やっぱりね。雨って当たると痛いもんね」と思っていたらしく、雨とは痛いもので雨が降ると学校に行きたくなく、よく親に叱られていたようです。また汗もかかず体温調節もできないために、自閉だけではなく、知的障害がある子の学級だけクーラーを入れたりすることもあるようです。

行動もマニュアル作業で、時々つばきの飲み込み方を忘れることがあったり、歩き方を忘れて右、左、右と意識して足を踏み出したり、寝返りの仕方を忘れて、耳がつぶれて膿を持つこともあるとか。

「ご飯を食べに行こう」って言われたら、「おかずは食べないのかな」と思ったり、「今度ご飯を食べに行こうね」と言われて、ずっと誘ってくれるのを待っていたり、どうも社交辞令を

理解できないようです。

ニキさんは、小学校の給食を食べきれない居残り組だったようです。圧倒的にパンの量が多く、一生懸命食べてもパンが減るところかどんどん増えることがありました。いじめっ子が置いていたようですが、置かれているのを気付かず「食べても食べてもパンが増えるっていう事は、私は神様なんだろう」と思ったようです。そして「神様なら水の上を渡ることができるはず」と思って、池ノ上を歩こうとして水の中に落ち、全身びしょぬれで保健室に連れていかれ親に叱られたとか。

「暗黙の了解」が理解できない。終電間際の駅で、「三列にお並び下さい」と書いてあると、「三列か、私一人しかいないのにどうしよう」あと二人誰か来るまで待たなきゃと不安になるようです。

「有料放送無料」と書いてあると、キャンペーン期間だと分かるまでうろたえたり、ホテルの部屋で「お客様のお声をお聞かせ下さい」というカードがあると「わーっ」とか叫んで、しばらくしてなんか違うな、って気付くとか。

また鍋料理で「鍋は触ったら叱られる」とようやく覚えても、「熱いから、危ないから」という事までは理解できず、食後空っぽの鍋を台所に運んで頼んでも、「鍋は触りません」と拒否したりする。どうも「背景の情報」が判らないようです。

読後の感想ですが、アスペルガーの人々は、我々、定型発達の人とは全く違った異文化を持つ人たちと理解できました。従って、一般常識をそのまま彼らに理解させることは大変な仕事になるということと、彼らの特性を良く理解すればお互いストレスにならない関係が築けるのではという事が判りました。（たまなは）